ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

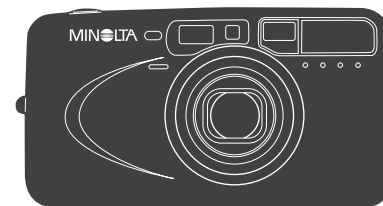
受付時間　10:00～18:00（土・日・祝日定休）

9223-2468-61　P-D105

MINOLTA

Capios 125s

使用説明書

ご使用前にお読みください。

正しく安全にお使いいただくために

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

警告　この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです（左図の場合は発熱注意）。

⚠ 警告

●指定された電池以外は使わないでください。

●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。

●電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

電池容量が残っていたり他の金属と接触すると、発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住いの自治体の規則にしたがって正しく破棄するか、リサイクルしてください。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出る、などの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。

放置すると火災や火傷の原因となります。

正しく安全にお使いいただくために

⚠ 警告

製品および電池や付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児が電池を飲み込む等、事故の恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火災の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると感電の恐れがあります。

⚠ 注意

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
しばらく操作しないでいると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ恐れがあります。

ボディ底面のこのマーク(CEマーク)は、本製品が電波障害に関するEU(欧州連合)の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語の Conformité Européenne**(ヨーロッパ認定)の頭文字です。**

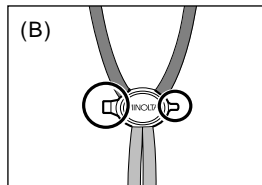
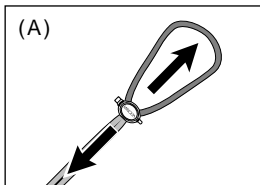
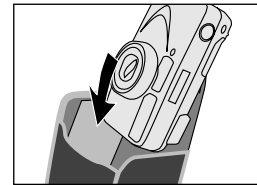
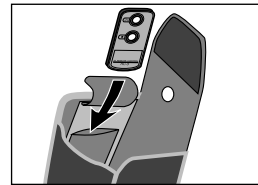
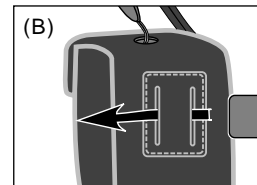
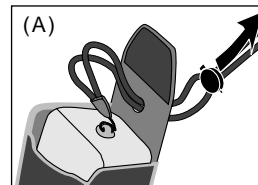
目次

お買い上げありがとうございます。

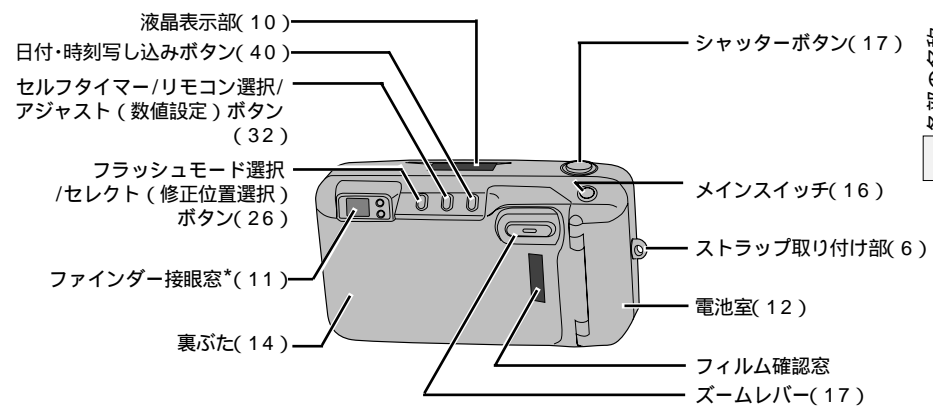
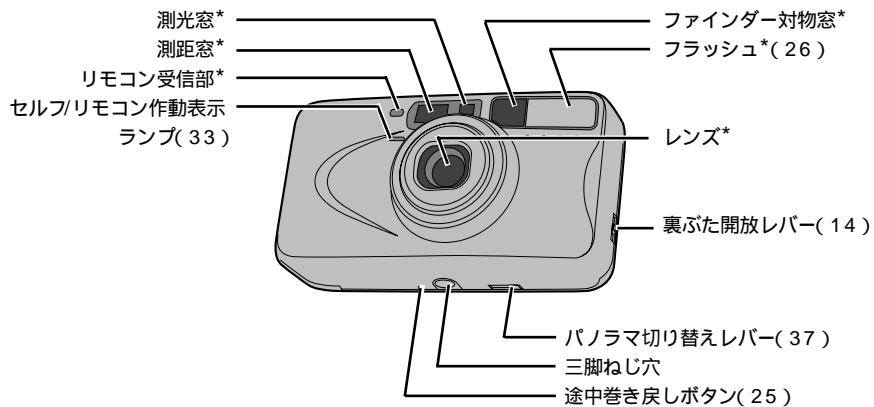
CAPIOS125sは、コンパクトなボディに37.5～125㎜の3.3倍ズームレンズを内蔵したフルオートカメラです。
いろいろな撮影が手軽に楽しめます。

このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前にお読みください。
またお読みになったあとは、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

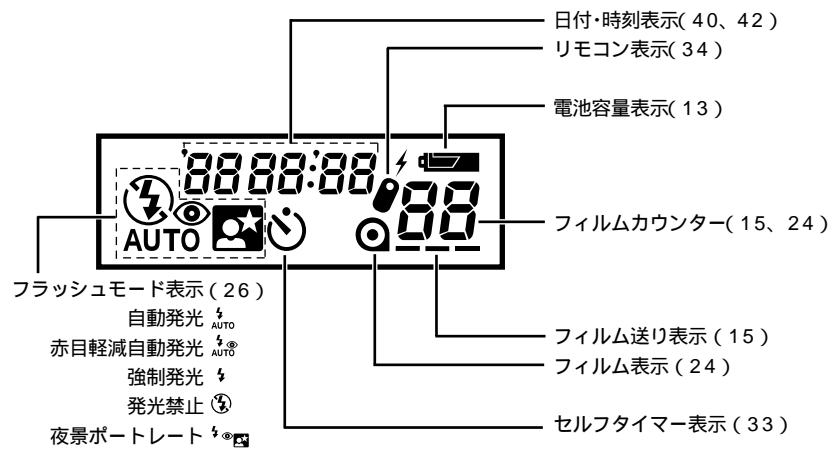
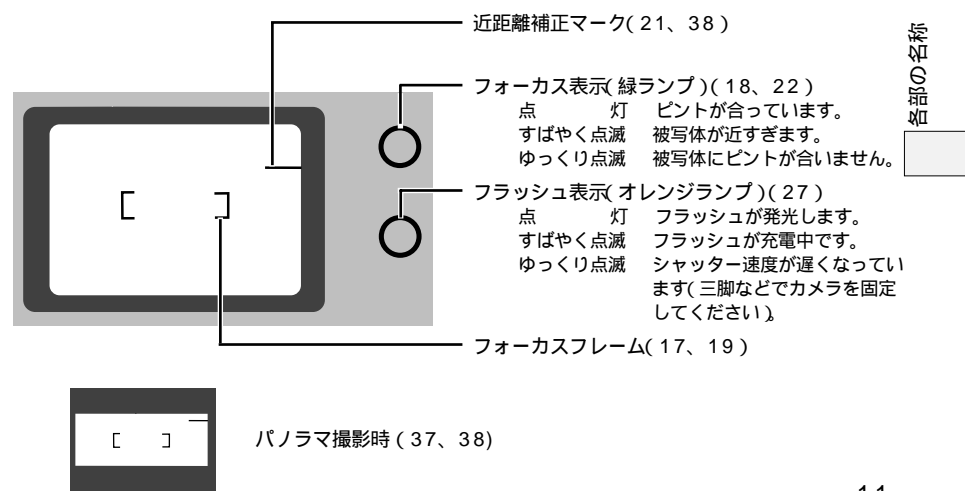
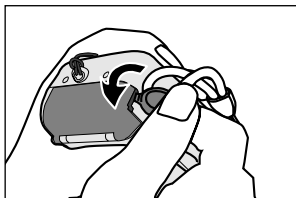
ストラップとケースの使いかた

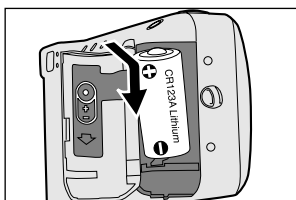
図のようにして、ストラップを取り付けます。

ストラップの持ち手の長さを調節することができます。(A)
また大きいほうの突起部分で電池室のふたを開けることができ、小さいほうの突起部分で途中巻き戻しボタンを押すことができます。(B)

カメラケースの内側にはリモコン用の収納ポケットがついています。

ストラップは図のようにケースの穴を通して使います。(A)

ケースは図のように、ベルトに通して使うこともできます。(B)

各部の名称　*部は汚さないようご注意ください。誤作動の原因になります。

液晶表示部　下図は説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー

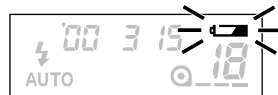
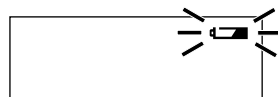
パノラマ撮影時（37、38）

電池を入れます　（お買い上げの際には、電池はすでに入っています。）

電池は、3Vリチウム電池（CR123A または DL123A）を1個使用します。

1 メインスイッチを押して電源を切った後、ストラップについている大きいほうの突起で、電池室のふたを開けます。

2 電池室ふた内側の＋－表示にしたがって電池を入れ、ふたを確実に閉じます。

- 電池交換後は、日付・時刻表示部に - - - - - - が点滅しています。本書42ページをご覧になり、日付や時刻を再設定してください（この状態のままでは、日付・時刻は印字されません）。

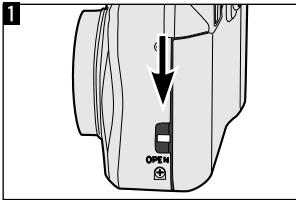
メインスイッチを押すとカメラの電源が入ります。そのときに自動的に電池容量がチェックされ、液晶表示部にその結果を表示します。

が約2秒間点灯。電池容量は充分です。

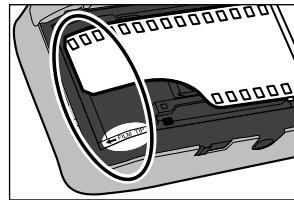
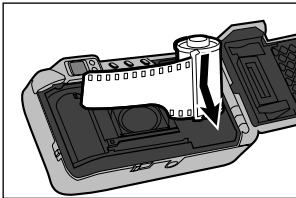
電池を交換します

撮影の途中で が点滅したら、新しい電池をご用意ください（この状態でもしばらくは撮影できます）。

が点滅し、その他の表示がすべて消えたら、電池を交換してください（この状態ではシャッターは切れません）。

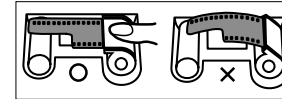
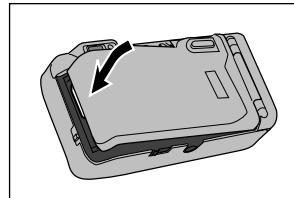
- お買い上げ時の電池は、出荷時に入れられたものですので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。
- メインスイッチを押しても何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されないときは、電池を交換してください。

フィルムを入れます

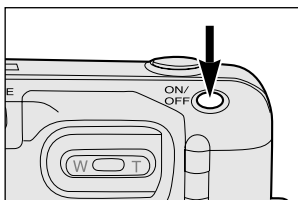
フィルム確認窓で、カメラの中にフィルムが入っていないことを確認してから裏ぶたを開けてください。

1 裏ぶた開放レバーをカチッと音がするまで押し下げて裏ぶたを開け、フィルムを入れます。

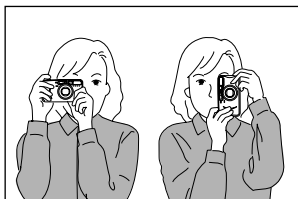
- このカメラは中にフィルムが入っていると、裏ぶた開放レバーを操作しても不用意に裏ぶたが開かず、液晶表示部に下図のCLOSEdの表示が出ます（セーフティーロック機構）。24.25ページの要領でフィルムを巻き戻すと、裏ぶたを開けることができます。

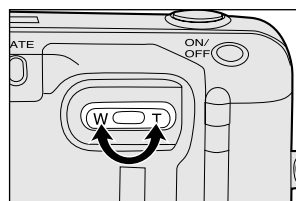
- 暗いところや望遠での撮影が多い場合は、ISO400以上のフィルムを使われることをおすすめします。
- ポラロイドインスタントリバーサルフィルムは、巻き上げがうまくできないことがありますので使用しないでください。
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。

2 フィルムの先端を「|← FILM TIP」マークの左端に合わせます。

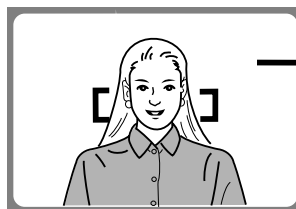
- フィルムが浮き上がらないようにセットしてください。

- フィルムの先端をカメラに入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎたときは、パトローネの中に戻してください。

3 裏ぶたを閉じます。

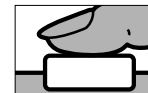
- フィルムが自動的に巻き上げられ、液晶表示部に ◎_ _1 が出ます。
- _ _0 が点滅しているときは、フィルムが正しく巻き上げられていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

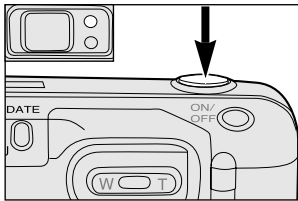
フルオートで撮影します

1 メインスイッチを押して、電源を入れます。

- 電源が入っている時はピントがずれることがありますので、ズームレンズの繰り出し部分を持たないでください。
- 約8分以上何も操作しないときは、レンズが本体内に収納され、節電のため自動的に電源が切れます。
  レンズが本体内に収納されるとき、レンズの動きをさまたげないでください。

2 カメラをしっかり構えます。

- レンズやフラッシュ、測距窓など、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。
- 縦位置で撮影するときは、フラッシュの発光部が上になるようにカメラを構えてください。

3 ファインダーをのぞき、ズームレバーを操作して、撮りたいものの大きさを決めます。

- ズームレバーのTの方を押すと望遠になり、より大きく写ります。
  Wの方を押すと広角になり、より広い範囲のものが写ります。

4 ピントを合わせたいものに[　　]を重ねて、シャッターボタンを半押し* します。

- 暗いときには、AF補助光としてフラッシュが発光し、被写体を照らします。
- シャッターボタンの半押しでピントを合わせます。

* シャッターボタンを軽く押すと、途中で止まるところがあります。この使用説明書では、ここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

フルオートで撮影します（つづき）

5 ファインダー横の緑ランプが点灯したら、そのままシャッターボタンを静かに押し込みます。

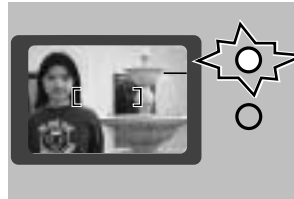
- 暗いときや逆光のときには、フラッシュ表示（オレンジランプ）が点灯し、フラッシュが自動的に発光します。
- オレンジランプがすばやく点滅しているときは、フラッシュが充電中です。オレンジランプが点滅から点灯に変わるまで待ってから撮影してください。
- 緑ランプがゆっくり点滅するときは、シャッターは切れますが、ピントの合わない写真になることがあります。

撮りたいものが画面中央にないときは

撮りたいもの（ピントを合わせたいもの）が画面中央にないときは、一時的にピントを固定して撮影します。

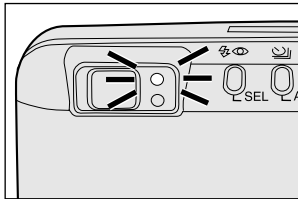
1 撮りたいもの、または撮りたいものと同じ距離で同じくらいの明るさのものに［　］を重ねます。

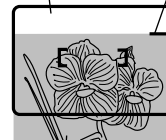
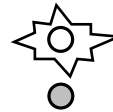
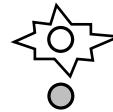
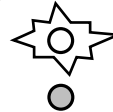
2 シャッターボタンを半押しします。

- 緑ランプが点灯し、ピントが固定されます。

3 シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に変え、シャッターボタンをそのまま押し込みます。

近くのものを撮るときは

60㎝まで被写体に近づいて撮影できます。

●この距離より撮りたいものに近づきすぎると、ピントは合わず、緑ランプがすばやく点滅してお知らせします。シャッターは切れません。
●写したいものが極端にカメラに近い場合、緑ランプがゆっくり点滅してシャッターが切れることがありますが、ピントは合いません。

近距離補正マークの使い方

1.6m未満の距離にあるものを撮るときは、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にずれが生じます。次の要領で撮影してください。

1 ピントを合わせたいものに[　]を重ねてシャッターボタンを半押しします。

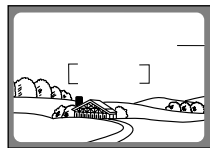
2 シャッターボタンを半押ししたまま、カメラを少し上に向けて撮影します。

●フィルムには近距離補正マークの下側（　の範囲）にあるものが写ります。
●撮影距離が短いほど、また望遠側で撮影するほど、ずれの量は多くなります。最大にずれた場合、近距離補正マークの位置が写真の上端になります。
●パノラマ写真撮影の場合は38ページを参照してください。

できあがった写真

基本操作編

オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラでは、被写体のコントラスト(明暗差)を利用してピント合わせをしているため、以下のようなものにはピントが合わないことがあります。このような場合は、撮りたいものと同じ距離にある別のもの(コントラストのあるもの)にピントを一時的に固定してください(操作方法は19ページ「撮りたいものが画面中央にないときは」をご覧ください)。

青空や白壁など、被写体にコントラスト(明暗差)のない場合

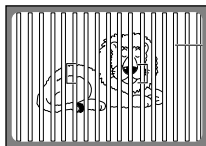
繰り返しパターンの連続するもの

→ 緑ランプがゆっくりと点滅して、AF(オートフォーカス)が働かないことをお知らせします。この場合、カメラは以下の距離にピントを固定して撮影します。

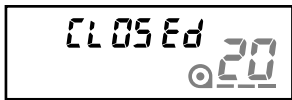
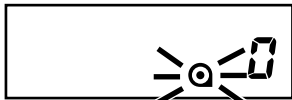
●フラッシュが発光する場合:
約3m～6m（焦点距離による）
にピントが固定されます。

●フラッシュが発光しない場合：
無限遠（非常に遠く）にピントが固定されます。

太陽のように明るすぎる被写体や、水面などきらきら輝いている場合。
明るい光源がフォーカスフレームのすぐ近くにある場合

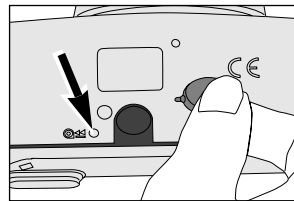
→ 緑ランプが点灯しますが、ピントが人物に合わず、明るい光源にあうことがあります。

遠くと近くに共存するものがある場合

→ 緑ランプが点灯しますが、遠いライオンか、近いオリかのどちらかにピントの合った写真になります。

フィルムを取り出します

最後のコマまで撮り終えると、ズームレンズが収納され、フィルムは自動的に巻き戻され、フィルムカウンターが逆算します。巻き戻しが終了して液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり、◉が点滅したら裏ぶたを開けてフィルムを取り出します。

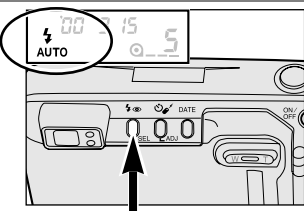
●巻き戻しが終了しないうちに、裏ぶた開放レバーを操作しても、左図のようにCLOSEdが表示され裏ぶたは開きません（セーフティーロック)。巻き戻しが終了すると裏ぶたは開けることができます。

●すべての表示が点滅して巻き戻しが途中で止まったときは、一度電池を抜いて入れ直してください。

●フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは日付・時刻が写し込まれなかったり、現像処理でカットされる可能性があります。確実に撮影されるためには、規定枚数を超えた時点で、フィルムを途中巻き戻していただくことをお奨めします。

フィルムを撮影途中で巻き戻すには

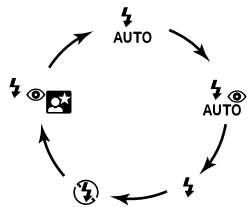
ストラップについている小さいほうの突起部分で、ボディ底面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

●ボタンを強く押し込まないでください。故障の原因となります。

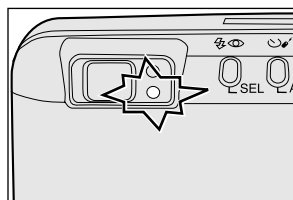
いろいろなフラッシュモードが選択できます

フラッシュモードの選択

自動発光 AUTO、赤目軽減自動発光 AUTO、強制発光 、発光禁止 、夜景ポートレート の５つのフラッシュモードが選べます。

フラッシュモード選択ボタンを押すごとに、下図の順序でフラッシュモードが変わります。

- 自動発光と赤目軽減自動発光は、設定後、カメラの電源を切ってもそのまま保持されます。その他のフラッシュモードは自動発光または赤目軽減自動発光（前回設定していた方）に戻ります。

必要なときに自動的に発光します（自動発光）

自動発光 AUTO では、フラッシュは暗いときや逆光のとき、自動的に発光します。

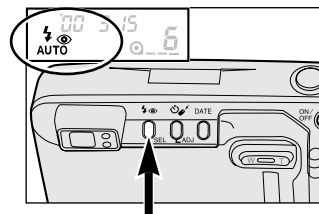
	ISO100	ISO400
37.5㎜	0.6～4.6m	0.6～9.2m
125㎜	0.6～2.4m	0.6～4.8m

フラッシュ光の届く距離

フラッシュ光の届く距離はレンズの焦点距離やフィルムの感度によって変わります。左の表を目安に、この範囲内で撮影してください。

フラッシュ表示（オレンジランプ）の働き

シャッターボタンを半押ししたときにファインダー横のオレンジランプが点灯すれば、フラッシュが発光します。

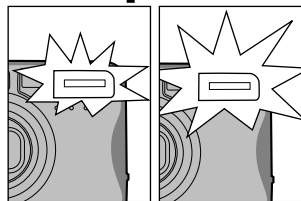
- ランプがすばやく点滅している場合はフラッシュが充電中です。点灯に変わるまでしばらく待ってください（フラッシュ充電時間は、新品電池で約0.5～6.5秒です）。

フラッシュで目が赤く写るのをやわらげるには（赤目軽減自動発光）

プリ発光　　本発光

シャッターが切れる前に小光量のフラッシュが数回発光して(プリ発光)、暗いところで目が赤く写るのを目立たなくします。

1 フラッシュモード選択ボタンを押して AUTO マークを選びます。

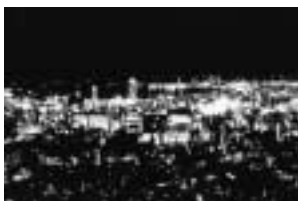
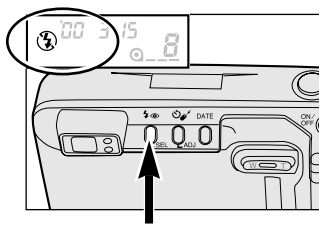
2 シャッターボタンを押して撮影します。

- 小光量の発光(プリ発光)と一緒にファインダー横のオレンジランプも点滅します。
- シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間(約1.5秒間)、カメラを動かしたり被写体が動かないよう注意してください。

フラッシュを必ず発光させたいときは（強制発光）

明るい屋外で人物の顔に帽子の影ができているとき、または蛍光灯のついた明るい室内で撮影するときなど、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

1 フラッシュモード選択ボタンを押して ϟ マークを選びます。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

フラッシュを発光させたくないときは（発光禁止）

発光禁止で撮影すると、夕方の風景や町の夜景も暗くならずに撮影できます。美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されている場所でもこの方法で撮影します。

1 フラッシュモード選択ボタンを押して ⚡ マークを選びます。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

- 暗いところではシャッター速度が遅くなり(最長10秒)、写真がブレやすくなります。ファインダー横のオレンジランプがゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

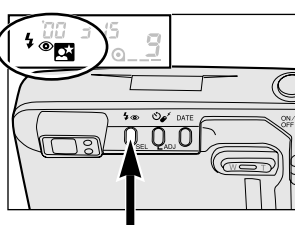
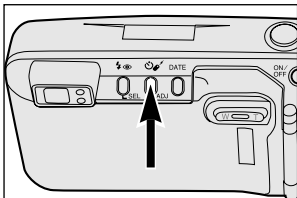
夜景を背景にした人物を撮るときは（夜景ポートレート）

シャッター速度が遅くなり、フラッシュも発光するので、人物も後の背景も両方写せます。

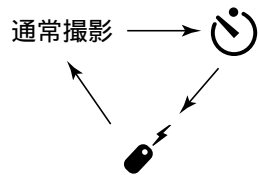
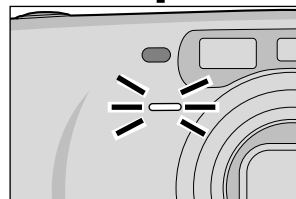
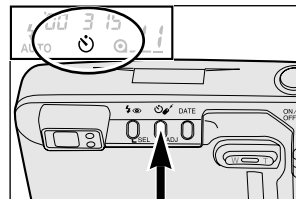
1 フラッシュモード選択ボタンを押して ⚡👁 マークを選びます。

- 人物のいない夜景を撮影するときは、左ページの発光禁止で撮影してください。
- フラッシュは必ず発光します。またシャッターが切れる前に数回発光します（赤目軽減発光)。

2 構図を決めて、シャッターボタンを押し込みます。

- シャッター速度が遅くなりますので(最長1秒)、カメラを三脚などに固定して撮影してください。写される人にも声をかけて、動かないように気を付けてもらうことをおすすめします。
- 人物の背景に明るい光源（ネオンなど）があるときは人物にピントを固定してから撮影してください。（19ページのピントを固定する要領を参照）

いろいろな撮影が選択できます

通常撮影のほかに、セルフタイマー撮影 、リモコン撮影 が選べます。

セルフタイマー/リモコン撮影選択ボタンを押すごとに、左図の順序で設定が変わります。

●メインスイッチを押して電源を切ると（または自動的に電源が切れると）、次に電源を入れたときは、通常撮影に戻ります。

セルフタイマー撮影ができます

撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念撮影などに便利です。

1 カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/リモコン撮影選択ボタンを押して を点灯させます。

2 撮りたいものに[　　]を重ね、シャッターボタンを押し込みます。

●液晶表示部の とカメラ前面の赤ランプが点滅し始め、約10秒後にシャッターが切れます。シャッターの切れる直前にランプの点滅が早くなるので、シャッターの切れるタイミングがわかります。

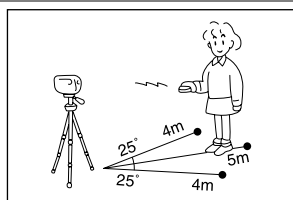
●セルフタイマー撮影を中止したいときは、シャッターが切れる前にセルフタイマー/リモコン撮影選択ボタンを押すか、メインスイッチを押して電源を切ってください。

●撮影後は、通常撮影(AUTO)にもどります。

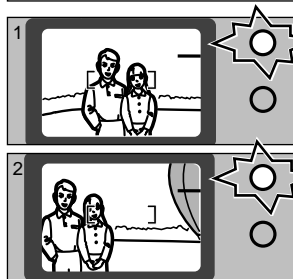
リモコン撮影ができます

付属のリモコン（IRリモコンRC-3）を使うと、カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。
2秒後撮影ボタン（2s）を押すと、2秒後にシャッターが切れますので、リモコンを拳の中や背中などに隠すことができます。
撮影ボタン（●）を押すとすぐにシャッターが切れます。

1 カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/リモコン撮影選択ボタンを押して を点灯させます。

- ●逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影が可能な距離が短くなったり、リモコン撮影できないことがあります。
- ●約8分以上カメラ、リモコンを操作しないと、自動的に電源が切れます。

2 図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラに向け、2sボタンか、撮影ボタン（●）を押します。

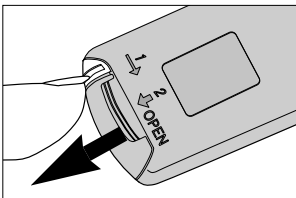
- ●2sボタンを押した場合は、カメラ前面の赤ランプが点滅し始め、約2秒後にシャッターが切れます。撮影ボタン（●）を押したときは、赤ランプが1回点灯してすぐにシャッターが切れます。
- ●撮影後もカメラはリモコン撮影の設定のままです。解除するには、セルフタイマー/リモコンボタンを押して を消してください。

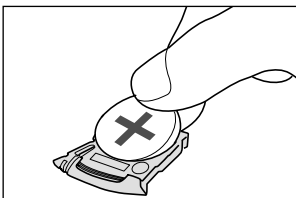
撮りたいものが画面中央にないときは

1 撮りたいものに[　]を重ねてシャッターボタンを半押しします。

- ●シャッターボタンの半押しで、何度でもピントを合わせ直すことができます。

2 ファインダー横の緑ランプが点灯したら、シャッターボタンから指を離して撮りたい構図に戻し、リモコンで撮影します。

- ●撮影後も緑ランプは点灯したままで、ピント位置が固定されていることをお知らせします。同じ距離のものなら続けて撮影できます。
- ●ピント位置の固定をやめたいときは、セルフタイマー/リモコンボタンでリモコンモードを再設定するかズームレバーを操作してください。

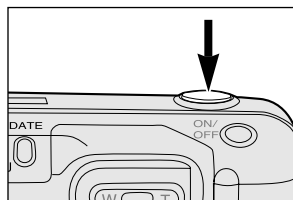
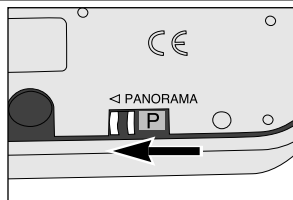
リモコン撮影ができます（つづき）

リモコン用電池の交換

コイン型リチウム電池（CR2032）1個を使用しています。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。電池の寿命は約10年です（お買い上げのときの電池はそれより消耗が早くなることがあります）。

1 リモコンを裏向けて、図のように電池室を引き出します。

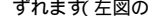
2 古い電池を取り出し、＋側を上にして新しい電池を入れ、電池室を元どおり確実にはめ込みます。

注意

コイン型電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

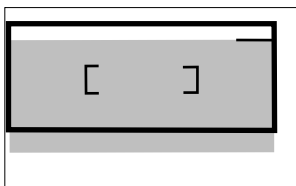
パノラマ撮影ができます

フィルムの途中でパノラマ撮影に切り替えることができます。

1 カメラ底面のパノラマ切り替えレバーを矢印方向に切り替えます。

- ファインダーがパノラマ用に切り替わります。
- 逆方向に切り替えると、パノラマ撮影の設定は解除され、通常の撮影にもどります。
- 三脚を利用してパノラマ撮影する場合、パノラマ切り替えレバーを操作してから、カメラを三脚にとりつけてください。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

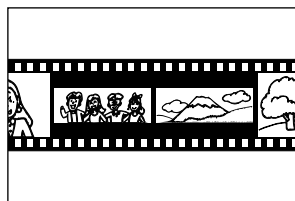
- 実際にフィルムに写った画面よりもプリントされる範囲がやや狭くなる場合がありますので、構図を決めるときは画面の周辺部に少し余裕を持たせてください。
- パノラマ撮影のときは、撮りたいものから60㎝（望遠の場合1.2m）以上離れて撮影してください。被写体が近すぎる場合は、ファインダー横の緑ランプがすばやく点滅し、シャッターは切れません。

（次ページにつづく）

パノラマ撮影ができます（つづき）

●2.1m未満の距離にあるものを撮るときは、撮影範囲が全体に下へずれます(左図の　　　　の範囲が写ります)ので、構図にご注意ください。(21ページの近距離補正マークの使い方を参照)

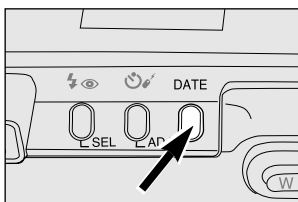
パノラマ撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは

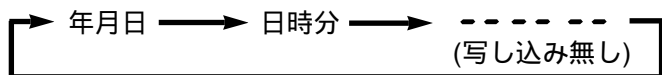
パノラマ撮影されたフィルムであることをお店に伝えて出してください。

●標準とパノラマの混在するフィルムを通常サイズで現像・プリントに出すと、上下に黒い帯が写し込まれたり、パノラマ撮影したコマだけプリントされないことがあります。

パノラマ撮影したフィルム

図のようにコマの上下がカットされた状態になっています。

●パノラマ写真のプリントサイズは、89㎜×254㎜です。
●パノラマ撮影しても、フィルムの撮影枚数はパノラマ撮影しない場合と変わりません。

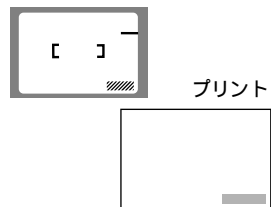
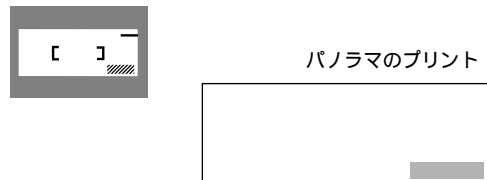
日付・時刻を入れて撮影できます

1 カメラの電源を入れ、日付･時刻写し込みボタン(DATE)を押して、印字される内容を選びます。

●日付･時刻写し込みボタンを押すごとに、液晶表示部の表示が次のように切り替わります。

● - - - - - - が表示されているときは、日付や時刻は写し込まれません。
●日付･時刻や - - - - - - が点滅しているときは、写し込まれません。42ページの手順で日付と時刻を再設定してください。

普通の撮影のファインダー

プリント

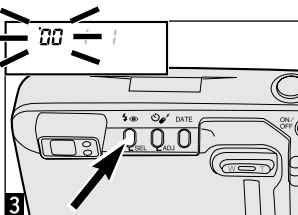
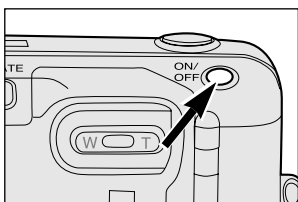
パノラマ撮影のファインダー

パノラマのプリント

2 シャッターボタンを押して撮影します。

●左図の ////// の位置に写し込まれます。この位置に白色/黄色/オレンジ色などの明るい色のものがあると、写し込んだ文字が読みにくくなります。

注意

●写し込みは、次のコマに巻き上げるときに行われるので、規定枚数を超えた最後のコマでは写し込まれないことがあります。

日付・時刻の修正

電池を交換した後など、数値の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

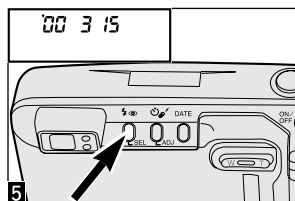
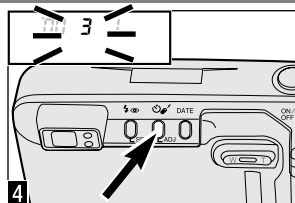
● 電池を交換した後や電池を入れ直した後は、電源を入れると日付・時刻表示が「－－－－ －－ の点滅」になっています(日付・時刻写し込みボタンを押すと「日付 または 時刻表示の点滅」になります)。この状態のままでは、日付や時刻は写し込まれません。

1 (カメラの電源が入っているときは)メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。

2 日付・時刻写し込み(DATE)ボタンを押して、日付を点灯させます。

3 セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

●" 年 "の数字が点滅します。

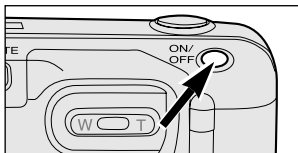
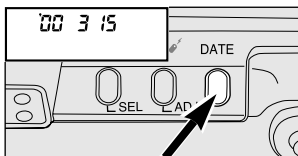
● セレクト(修正位置選択)ボタンを押すごとに、年 → 月 → 日 → 時→ 分 の順序で、点滅箇所が変わります。

4 アジャスト(数値設定)ボタンを押して、数値を修正します。

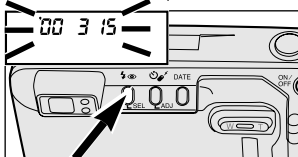
● 押し続けると、数値が早送りされます。

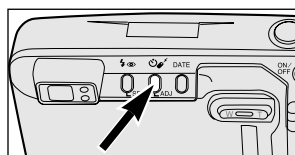
● 他にも修正個所があるときは、2、3 の操作を繰り返します。

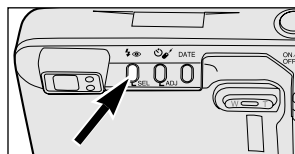
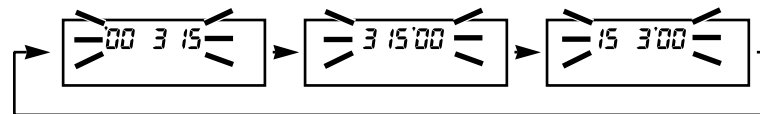
5 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまで、セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

● 点滅が点灯に変わって修正が完了し、5秒後に表示が消えます。

日付の年月日の並び方を変えることができます

1 （カメラの電源が入っているときは）メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。

2 日付・時刻写し込み（DATE）ボタンを押します。

●年 月 日 が表示されます。

3 セレクト（修正位置選択）ボタンを3秒間押し続けます。

●"年 月 日"すべてが点滅します。

4 アジャスト（数値設定）ボタンを押して、年月日の並び方を変えます。

●アジャスト（数値設定）ボタンを押すごとに年月日→月日年→日月年の順で並び順が変わります。

5 希望の並び順を選んだら、セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。

●点滅が点灯に変わって修正が完了し、5秒後に表示が消えます。

取り扱い上の注意

使用温度について

♦ このカメラの使用温度範囲は－10℃～40℃です。

♦ 直射日光下の車の中など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。

♦ 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

♦ カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

♦ 電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

♦ 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。

♦ 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によっては X線検査でフィルムが感光する恐れがあります。

♦ 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償はご容赦願います。

その他

♦ カメラに強い衝撃を与えないでください。

♦ このカメラは防水構造ではありません。
- 海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

♦電池の容量が十分あるのにカメラが故障で動かなくなったとき、またはフィルムが入ったままシャッターが切れず、巻き戻しもできない場合、フィルムが取り出せないことがあります。無理に取りだそうとせずに、フィルムを入れたまま、カメラをお買い上げのお店または お近くの当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

♦防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。

♦保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る（フィルムを入れないでシャッターを切る）ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

取り扱い上の注意

手入れのしかた

- **カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアで軽く吹き飛ばしてください。**
- **測距窓(6ページ参照)が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。**
- **レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。**
- **シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。**
- **レンズ面に直接指で触れないでください。**

アフターサービスについて

- **本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。**
- **アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。**

主な性能

レンズ：37.5-125㎜/F5.4-10.3

使用可能フィルム感度：
DXコードにより自動設定(ISO25～3200)

シャッター速度：
8～1/500秒

露出制御範囲（ISO100）：
37.5㎜時 EV3～17
125㎜時 EV3.5～17

●夜景ポートレートモード時は1秒までの、フラッシュ発光禁止モード時は10秒までのスローシャッター

電源：カメラ本体ー3Vリチウム電池CR123A
リモコンーリチウム電池CR2032

撮影可能本数： 約12本
（新品電池で電池消耗までに撮影できるフィルム本数。24枚撮りフィルムでフラッシュ使用率50%として計算）

ファインダー倍率：
37.5㎜時 0.4倍
125㎜時 1.19倍

大きさ―カメラ本体：
112（幅）×60（高さ）×44（奥行）㎜

リモコン：
31.5（幅）×66（高さ）×6（厚さ）㎜

重さ： カメラ本体 190g（電池別）
リモコン 12g（電池含む）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。
●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

こんなときは

症状	原因	対策	ページ
シャッターがきれない。	電池の入れ方が間違っている。 フィルムが正しく装填されていない。 フラッシュが充電中。 被写体に近付き過ぎ。	電池を正しく入れ直す。 フィルムを入れ直してください。 オレンジランプの点滅が終わるまで待って撮影する。 緑ランプが点灯する距離で撮影する。	12.13 15 18 20
明るいのにフラッシュが発光する。	手ブレ防止のためフラッシュが発光することがある。	ISO400等、高感度フィルムを使用する。	14
フラッシュが発光しない。	自動発光モードでは、場面が思ったより明るい場合、フラッシュは発光しないことがある。	フラッシュが必要な場合、強制発光モードで撮影する。	29
リモコンによる撮影ができない。	逆光時など、極端に明るい場所で撮影しようとしている。	カメラの向きを変えるか、セルフタイマーで撮影する。	34-36

症状	原因	対策	ページ
写真がブレている。	暗い所でフラッシュを使わずに撮影したので手ブレをおこした。	シャッタースピードが遅くなるときは三脚を使用する。	30
フラッシュを使用したのに写真が暗い	フラッシュ光の届かない距離で撮影した。	フラッシュ光の届く距離で撮影する。	27
日付表示が点滅している（日付が写っていない）	電池交換後、日付を設定していなかった。	日付・時刻を設定する。	42
裏ぶたが開かず、フィルムが取り出せない。	フィルムが巻き戻されていない。	途中巻き戻しボタンでフィルムを巻き戻す。	24-25
電池の容量が十分あるのに動かなくなった。 液晶表示部の表示がすべて点滅する。	電池を入れ直してみてください。繰り返して同じ状態になるときは、故障ですので、カメラをお買い上げのお店またはお近くの当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。		24